

授業科目名 科目コード	家族社会学（Family Sociology） 2013011-043					担当教員	米 山 宗 久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>家庭や家族の基本的機能を理解するとともに、結婚やワーク・ライフ・バランスなど、今日の家庭福祉が直面する課題について適切な知見を得ることを目的とする。さらにその対策としての必要性を理解できるようになることを目標とする。</p> <p>家族のイメージと実像、家族の形態、夫婦、子育てなどを整理したうえで、家族をめぐる社会問題を取り上げて現状と課題を明らかにする。できるだけ発言の機会を設けるとともに、学修内容の理解を深めるために視聴覚教材も活用する。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 家族機能の問題を理解する。</p> <p>(ii) 少子高齢化による家族の変化を理解する。</p> <p>(iii) 夫婦関係や結婚の多様化を理解する。</p> <p>(iv) 子育てと介護の諸問題を理解する。</p> <p>(v) 虐待と家族関係を理解する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
木下謙治・園田ゆり・浅利宙（2016）「家族社会学第3版 基礎と応用」九州大学出版会									
⑦ 参考図書・指定図書									
永田夏来・松木洋人（2017）「入門 家族社会学」新泉社									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%		20%		10%		100%
(i) 家族機能の問題を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(ii) 少子高齢化による家族の変化を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iii) 夫婦関係や結婚の多様化を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iv) 子育てと介護の諸問題を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(v) 虐待と家族関係を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
フィードバックの方法	小レポートはプレゼンテーションを行い、小テストは解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。</p>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	家族とは何か	テキスト	家族と世帯の現状を理解 30分
2	家族の変動	テキスト	家族の変化を理解 60分
3	配偶者選択と結婚	テキスト	結婚成立を理解 60分
4	夫婦関係	テキスト	家制度と夫婦関係を理解 60分
5	親子関係	テキスト	親子関係を理解 60分

6	高齢者と家族	テキスト	高齢者の家族構成を理解	60分
7	結婚の多様化と家族	テキスト	近代的な結婚規範を理解	60分
8	生殖補助医療と家族	テキスト	生殖補助医療を理解	60分
9	少子化と子育て環境	テキスト	少子化の原因を理解	60分
10	青少年問題と家族	テキスト	非行少年の家族を理解	60分
11	高齢者介護の諸問題	テキスト	高齢社会の現状を理解	60分
12	ワークライフバランス	テキスト	仕事と家庭を理解	60分
13	虐待と家族	テキスト	虐待の実態を理解	60分
14	国際養子縁組における親子関係	テキスト	養子縁組を理解	60分
15	まとめ	テキスト	今後の家族関係を理解	60分

⑪ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、家族内におけるDV、児童虐待、孤立化の現状、それに対する課題と対策を学生に伝えることができる。

たとえば、DVによる相談機関（児童相談所・女性相談所）の必要性を伝えることができる。さらに実体験として相談機関につなげた経緯・課題を伝えることができる。

また、子ども子育て支援計画においても、家族の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。